

WEB 版

道徳だより

# こころのたね

令和6年9月25日  
大田区立馬込小学校  
校長 山本 秀一  
道徳部  
令和6年度 第5号

## 海外の小学校の道徳教育事情

今年8月、オーストラリアで語学研修をする機会があり、その一環でシドニーの公立小学校に数回訪問させていただきました。多様な人種の子どもたちが、それぞれの教室の中で学んでいました。

その小学校では、日本の学校にありがちな掲示（例えば、「廊下は走りません」や「始業時間を守りましょう」など）はありません。しかし、廊下を走ったり、授業が始まってもし立ち歩いたりする児童はいました。このことを現地の小学校の先生に聞いたところ、特別な生活指導を行ってはいないとのことでした。

また、カリキュラムに道徳の授業はありません（一部のアジア地域の諸外国では道徳の授業はあるようです）。思うに、自律（自立）が重んじられる海外だからこその背景もあるような気がしました。各家庭での指導（躾）が道徳授業の補完になっているのかもしれません。

ただ、電車に乗る時に、列にはならず一斉に乗り込んでいました。海外の方々が日本の電車に乗る時に驚くことのひとつに“整列して乗り込む”ということは有名ですが、この日本の習慣も長年の道徳教育の「善悪の判断」や「規則の尊重」などが大きく寄与していると思いました。

（文責：道徳教育推進教師 久慈 利幸）

## 5年生の道徳科の時間

この日の授業では、周囲の勢いに流され、正しいと言えない主人公の「わたし」の姿を通して、明るい心で生活するには、どう考え、判断すればいいのかを考えました。

**主題名**: 明るい心で **教材名**: 「このままでいいのかな」

**内容項目**: 「正直、誠実」

**あらすじ**: あるバレーボールの試合での場面です。主人公の「わたし（由花）」は相手チームの七海がアタックしたボールが僅かにラインアウトしたことを確認しました。相手チームのメンバーは相次いで、「七海、ナイスアタック。」と声をかけます。主人公のチームのみんなは「アウトだった。」と反論しますが、「インだったでしょ、由花。」と七海から聞かれてしまい、おもわず由花は「インだった。」と答えてしまいます。「わたし（由花）」はそれからゲームを楽しむことができず、いつまでたっても心の中のもやもやが晴れることはありませんでした。

